

1951年 第1回オールスターゲーム 勝利チーム記念品

プロ野球オールスターゲームは、セ・パ両リーグによる2リーグ制がスタートした翌年の1951年から、両リーグ対抗戦として毎年開催されています。

1951年の第1回オールスターゲームは、出場した監督、コーチ、選手計56名のうち、後に殿堂入りしたのが25名(!)という超豪華メンバーで、オールセントラルは天知俊一監督、水原茂コーチ、坪内道則コーチ、別所毅彦、藤本英雄、杉下茂、金田正一、長谷川良平、中尾碩志、川上哲治、千葉茂、藤村富美男、青田昇、小鶴誠、岩本義行、西沢道夫。オールパシフィックは浜崎真二コーチ、三原脩コーチ、荒巻淳、関根潤三、飯田徳治、山本（鶴岡）一人、大下弘、別当薫、呉昌征が出場しました。さらに球審も第1戦が島秀之助、第2戦が横沢三郎、第3戦が筒井修と、後の殿堂入り審判が務めました。

第1戦は7月4日、甲子園で開催され全セが2-1で勝利。この試合の入場者数48,671は現在もオールスターの最多観客試合となっています。第2戦は7月7日に後樂園で行われ、全セが4-2で連勝、翌8日の第3戦も後樂園で行われ、全パが4-3と意地を見せました。

2勝1敗で勝利した全セの監督、コーチ、選手には、記念品として写真の楯が贈られました。当館には全セ勝利監督の天知俊一氏のものが収蔵されています。7月5日付の報知新聞によると、この記念品は御木本真珠店目黒工場で製作され、ダイヤモンドをイメージした菱形ベース（銅製に銀メッキ）の上に、浮彫りで王冠とナインを表す9本のバットをあしらひ、その先端には星を配し、金メッキを施しているとのこと。サイズは幅48cm、高さ36cm、一辺が30cmで、王冠

に「Shunichi Amachi」と名前が彫られ、王冠の下には「Winner of All-Star Games」と浮彫りされています。第1回の記念すべき“球宴”に対する主催者の思いのこもった豪華な記念品といえるのではないのでしょうか。

